

長浜市地域福祉活動計画

平成27年度報告書

長浜市地域福祉活動計画

計画期間：平成26年度～平成30年度

地域の絆で ともに育み支えあい
安心して暮らせるまち 長浜



おせんどさんの地域づくり
だしかいなの人づくり
ねんごろな根太づくり

社会福祉法人 長浜市社会福祉協議会

長浜市地域福祉活動計画推進委員会

【基本理念】

地域の絆で ともに育み支えあい 安心して暮らせるまち 長浜

基本目標 1 おせんどさんの地域づくり
〔地域の絆で安心して暮らせる地域づくり〕

①地域の絆づくり

◆地域の交流活動、高齢者やしょうがい者などの居場所づくりの活動が地域に定着し、取り組みの充実が図られています。

地域福祉推進の基盤組織である地区社協（福祉の会）が実施した地域交流活動が 135 事業にのぼり、参加者総数延べ 24,211 人（前年比 58%増）の交流・ふれあい活動が実施されました。小地域においては高齢者の交流・居場所づくりの『ふれあいサロン活動』が新たに 12 地域（自治会）で展開され市内 175 カ所、延べ 36,105 人（前年比 13%増）が参加し地域の絆を深めました。

しょうがい者や外国出身者、介護者など同じ立場にある者同士（当事者）の交流や情報交換・居場所づくりが推進され、各福祉テーマ型の取り組みでは 67 回の開催、延べ 1,404 人が参加し、課題当事者同士および地域とのつながりを深める取り組みが進められました。

特に平成 27 年度は、過疎化が進む中山間地域（余呉地区）において、住民の憩いと、交流・学びの場である地域カフェ「ほっこり茶屋」が開設され、38 回の実施と延べ 1,058 人が参加し、中山間地域福祉活動の拠点として取り組みが展開されました。

②健やかな成長と自立を育む地域づくり

◆ひとりひとりに応じた暮らしの困りごとへの支援の輪が広がりをを見せています。

平成 27 年度は、新たな取り組みとして、社会問題化している若年層のひきこもり支援として「えんかふえ」が毎月 1 回開催され、延べ 116 人の当事者および家族の居場所・交流の場として取り組みが進められました。

高齢者やしょうがい、子育て世帯などに対する暮らしのちょっとした支えあい活動として、生活支援ボランティア組織が 市内 2 カ所（神田・余呉地区）で活動し、要援護者等に対して延べ 91 回（前年比 51%増）の生活支援活動が提供されました。また、新たに高齢者世帯や中山間地域の大きな生活課題である買い物移動支援活動が展開され、要援護者の生活の質の向上が図られています。また、ボランティアの育成・研修や活動の周知、活動機材などの整備により活動の充実が図られ、市内各地区で高齢者や子育て世帯等が抱える日常の生活課題に対して、身近な地域のボランティアが柔軟に対応、支援する仕組みづくりが進められています。

◆地域住民活動の見守りの中で子どもの健やかな成長と保護者のつながりが深まっています。

少子化や子育ての多様化等により、子どもたちが野外の自然で学び・遊ぶ機会が減少する中で地域団体や保護者などの取り組みによる「冒険遊び場」活動の定着に向けた取り組みが進められています。平成 27 年度は、地域住民団体や N P O 団体等によるスポット開催や、地域住民を対象とした研修会・体験講座が開催され、取り組みに対する理解と関心が深まりつつあります。

また、未就園児と保護者の成長・情報交換の場である『おもちゃ図書館』が地区社協や福祉団体等との連携・協働により開催され、延べ 611 人が参加し子どもと保護者・地域住民の大切なつながりの場となっています。

③見守りで支えあう地域づくり

◆地域の基盤やつながりを活かした見守り、支えあい活動への取組みが高まっています。

地区社協の支援および協働により市内 9 地区において福祉委員活動が進められ、着実に地域の中で高齢者・しょうがい者等の要援護者世帯への見守り、ささえあい活動の充実が図られています。

また、冬期には要援護者にとって大きな生活課題である、除雪支援の仕組み『地域除雪支援事業』が 2 年目を迎え 66 自治会、1,453 世帯（前年比 41%増）において地域住民の主体的な活動による要援護者世帯への除雪活動・見守り活動が展開されました。

◆災害時の支援と見守り活動をつなぐことで、地域のたすけあい支えあいに対する理解と関心が高まっています。

今まで取り組みを進めてきた、長浜市避難支援見守り・ささえあい制度が登録者数の減少や制度自体の認知度が低下する中で取り組みの見直しが必要となっています。

平成 27 年度は、自治会を中心とする見守り、支えあいの基盤である小地域において、地域福祉コーディネーターと地域住民の連携のもとに、「防災・福祉マップ」作成の取り組みや「避難所運営ゲーム（HUG）」「いざ飯づくり体験」などの地域学習会・研修会（34 回・延べ参加者数 1,654 人）を開催し、それぞれの地域（自治会）の実情や課題に応じたきめ細やかな活動が展開されています。また、自治会などの小地域の中で取り組みを進めることで、地域の避難支援や日ごろの見守りの必要な方々の制度登録につなげる取り組みが進められています。

基本目標 1

【課題と展望】

◇地域住民組織（地区社協・福祉の会）の交流・居場所づくりの取り組みについては、活動に対する地域住民の参加意識の向上や活動周知に伴う情報共有が進んだ結果として、参加者数が増大しています。一方で活動・取り組みのマンネリ化等による参加者の固定化が進んでいる事業が散見されます。

地域の課題や課題を持った人に応じ、地域実情に即した新たな活動の展開に向けて、地域内での課題共有・新たな取り組みに向けた協議の場が求められています。

◇小地域の身近な居場所・交流づくりの場として、また「たすけあい支えあい」の関係づくりの場としての小地域サロン活動が、自治会を中心とする小地域の基盤組織の中で重要性が再認識され、取り組みが活性化しています。

しかしながら、自治会規模が小さいため担い手や参加者自体が少ない地域での開催や、日ごろの結びつきが希薄な地域（新興住宅地や団地等）での開催に向けた検討を進める必要があります。具体的には、自治会の枠を超え複数の自治会範囲での開催に向けた取り組みや、自治会内の結びつきが弱い地域での見守り活動・居場所づくりの必要性等の課題共有と課題解決に向けた担い手の育成方法等に対する検討が必要です。

◇近所での見守りや支えあいの取り組みを補完し、地区（日常生活圏域）で高齢者やしょうがい者などの要援護者に対する生活支援を行い、その人らしい充実した地域生活が送れることを目指した生活支援ボランティア活動の充実が図られています。

現在、市内 15 地区の内 2 地区（神田・余呉地区）において生活ボランティア団体が組織されていますが、市内全域での活動に向けた取り組みが必要です。

15,289人(前年度)

24,211人

地区社協(福祉の会)交流事業参加者数

地区社協(福祉の会)交流事業数
131事業(H26) ⇒ 135事業(H27)



市内15の地区社協(福祉の会)による、地域のふれあい、交流事業の参加者数です。ひとり暮らし高齢者や子どもと保護者の居場所づくり、未婚男女の交流の機会づくりなど、地域の特徴や課題に応じた多様な交流の機会をとおして、地域住民のふれあいと交流による福祉の地域づくりに取り組まれました。



91件(前年度比 51%増)

日常生活支援ボランティアによる 支えあい活動件数

日常生活支えあいボランティア団体数
2団体(H27)



地域に住む高齢者やしょうがい者など、日常生活を送るうえで様々な生活課題や日常生活の不便さを感じている方々に対し、地域住民による日常生活の支援活動(除草作業、買物サービス、除雪支援、畑作業支援など)に取り組まれています。現在、複数の地区においても取組みが検討されています。

31,785人(前年度) → 36,105人 175 サロン

小地域サロン実施数(※社協登録団体) およびのべ参加者数

市内で活動中の小地域サロン実施数とのべ参加者数です。最も身近な福祉活動の単位である自治会を中心に、月一回程度のサロン活動に取り組まれており、高齢者を中心に多くの方の交流や見守り支えあいの場となっています。

小地域サロン実施数

153(H25) ⇒ 165(H26) ⇒ 175(H27)



基本目標2 だしかいなの人づくり [お互いさまの関係づくり]

①参加と交流を育む環境づくり

◆福祉に対する理解と関心を高め、ボランティアへ参加する機会が広がっています。

次世代を担う子どもたちを中心に、福祉学習の場である『福祉教育』が市内30校の小中学校および企業・地域で延べ257回実施されました。特に平成27年度は学校との連携を深め、年間プログラムに基づいた計画的なカリキュラムの実施に取り組みを進めることができ、高齢者疑似体験、ボランティア学習・体験、車いす体験などの機会をとおして、ともに学び支えあう関係づくりが広がっています。

また、福祉活動を担うボランティア人材の育成および支援を目的とする『ボランティア養成講座』が10講座開催され、延べ981人が受講しボランティア活動へのきっかけづくり、活動の充実に向けた取り組みが展開されています。

②ともに支えあい頑張りあえる仲間づくり

◆ボランティア団体等の設立や活動を支える仕組みづくりが着実に進められています。

新たに5団体のボランティア団体がボランティアセンターに登録され242団体となりました。それぞれの地域課題・福祉テーマにおいて市内各地域・分野でボランティアの自主的な活動が展開されています。またボランティア情報誌等の発行(19回/約54,000部)や共同募金等を財源とした活動費の助成(94団体)などを行なうことで、ボランティア団体活動の充実が図られています。

地区内のボランティア団体で結成するボランティア連絡協議会(9団体)は、研修や交流・情報交換等の事業を61回(前年比24%増)開催し、新たな人材の育成や活動の充実に取り組んでいます。

◆地域の見守り活動やサロン活動の担い手の育成が進み、活動者が増加しています。

地区社協などの住民組織による人材育成のための研修会が 35 回開催され、1,482 人が参加するとともに、民生委員児童委員とともに地域の見守り活動を担う福祉委員の研修会が 12 回開催、397 人が参加するなど、地域福祉推進のリーダーとなる人材育成の取り組みが進められています。

また、高齢者を中心とした地域の交流・居場所づくりを進めるサロン活動者延べ 19,813 人がそれぞれの地域においてサロン活動に従事しました。男性参加者の獲得を狙ったコミュニケーション麻雀などの学習会開催など、サロン活動の活性化や課題に対応した人材育成が進められています。

基本目標 2

【課題と展望】

◇ボランティアセンターでは、福祉課題に応じたボランティア活動者の育成を図ることを目的に各福祉テーマ型の講座を開催しています。年々講座の定着とともに参加者数が増加し、ボランティア活動者として基礎的な知識や技能を身につけることで、半数以上の受講者がボランティア活動の担い手として活動しています。

今後は、福祉課題に応じたテーマ型の活動と併せて、地域の暮らしの充実を図るため、地域支援や生活支援に取り組むボランティア活動のあり方について検討を進め、誰もが地域の中できらっと輝きいきいきと地域活動に取り組める仕組みや、担い手の養成が求められています。

235団体

↳ 242団体

ボランティア登録団体数



市内で活動するボランティア団体等の活動支援や運営に関する相談・助言を行なうことでボランティア団体活動の充実や活動の継続を支援しています。
また、ボランティア団体の組織化やボランティア同士の連携・協働の機会を設けることで新たなボランティア活動の展開を図っています。

828人(前年度)

↳ 981人

ボランティア養成講座受講者数

ボランティア養成講座

講座開催数 8回(H26) ⇒ 10回(H27)

新たにボランティア活動に取り組むことや活動の充実を目的とした、ボランティア養成講座の受講者数です。

講座の内容のリニューアルや周知活動を充実させることで、非常に多くのボランティア活動者の育成やスキルアップの取り組みが進められました。



2,365回(前年度)



2,602回

小地域サロン開催数小および地域サロン活動従事者数

小地域サロン活動従事者数

9,492(H26) ⇒ 19,813(H27)

各自治会などを中心に開催されているサロンに関わる活動従事者数と開催数です。

非常に多くの方の協力により、各地においてきめ細やかな心配りのあるサロン活動が開催されています。



基本目標3 ねんごろな根太づくり
〔支えあって、安心して暮らせるしくみづくり〕

①気楽に相談できる関係・環境・意識づくり

◆市民生活を支える生活相談の基盤が充実されています。
今後地域課題に応じた基盤整備の検討が必要です。

市民の身近な相談窓口として、よろず相談所の運営や社会福祉士、しょうがい者相談員等の専門職8名を配置した生活相談窓口を運営し、住民の福祉課題やニーズに対応する基盤が整備されています。生活相談機能の強化として成年後見・権利擁護にかかわる普及啓発活動・制度利用支援等の機能の充実と適切な後見制度の利用相談（延べ相談件数 331 件）に取り組みが展開されています。

また、平成27年度は、しょうがい計画相談支援の充実を図るため、市と連携し計画相談支援事業所の開設に向けた準備を進め、幅広い市民生活の総合相談窓口としての機能充実が進められています。

②気になる人を支えられる関係づくり

◆地域で見守りが必要な方への支援体制の充実が必要です。

市全域において災害時や日ごろの見守り等が必要な要援護者を支援するため『避難支援・見守り支えあい制度』の取り組みが進められています。しかし、平成24年度の登録者数3,190人をピークに平成27年度末（H28.3 現在）では2,348人の登録と大幅な減少となっています。地域内での見守りささえあい活動の基盤となる本制度を推進し、近隣住民による互助・共助の取り組みの基盤づくりを推進することが求められています。

③協働と参画による地域づくり

◆各地区において住民主体の福祉活動計画の策定をとおした、地域福祉推進の取り組みが広がっています。

長浜市地域福祉活動計画の策定に基き、市内各地区において地区版の地域福祉活動計画の策定に向けて、地域の実情や課題を明らかにし、地域ニーズに応じたきめ細やかな福祉活動を進めるための計画づくりが進められ、市内全15地区で計画の策定が完了しました。

計画策定の過程で、地域住民自身が地域のくらしの課題や地域実情を把握するとともに、これからの地域福祉活動に求められる活動・取り組みを整理し、住民活動の充実や新たな取り組みを進める基盤の整備が進められました。

基本目標 3

【課題と展望】

◇東日本大震災や熊本地震等これまでの大規模災害での教訓を生かし、万が一の大規模災害における小地域での避難支援や見守り・支えあいの活動が地域住民意識の中で高まっています。しかしながら、市の避難支援制度との連携の仕組みづくりや登録促進については、地域間に大きなばらつきがあり登録者数も年々減少しています。

市行政と地域住民がいざという時に連携・協働し迅速な地域避難支援が行える体制整備と日ごろからの見守り・ささえあいの中での住民生活の質の向上を目指し、制度と住民意識の共有化を図り地域福祉推進の基盤的活動として一体的な取り組みが進められるよう事業展開を図ることが求められています。

◇平成 27 年度において、市内全 15 地区で住民の主体的な取り組みの指針と具体的な活動の取り組みの方向性を示した地区版の地域福祉活動計画の策定が完了しました。

今後は、地区版の計画が市域の長浜市地域福祉活動計画と連携・協働し、地域の課題・暮らしの問題の共有化や地域実情に応じた福祉活動の展開などについて話しあう場（地区版計画の推進・進行管理）づくりを進めることが求められています。

専門職の配置 8人 12,215回



相談員等専門職の配置数および相談支援回数

相談支援回数

10,874件(H26) ⇒ 12,215件(H27)



市民の身近な相談窓口として、よろず相談や社会福祉士、しょうがい者相談員等の専門職の配置数と相談支援回数です。

平成27年度は、新たにしょうがい者相談窓口の機能充実に向けた取り組みが進められています。

市内15地区に地域福祉コーディネーターを配置し、地域のふれあい活動の推進や福祉団体支援、地域の現状や課題について考える機会などの地域福祉活動支援を実施しました。

850件(前年度)

↳ 1,043件



地域福祉コーディネーターによる
地域福祉活動支援件数

地域福祉コーディネーター配置数

15地区

(前年度)

33回

416人



55回

967人

福祉懇談会(各種活動計画)開催回数
およびのべ参加者数



各地区において住民主体による地域の福祉課題の共有や活動の展望、方針について懇談会が開催されています。

今年度は、長浜市地域福祉活動計画に基づき、市内全15地区でよりきめ細やかな活動の指針となる地区版の地域福祉活動計画が策定されました。